

短期留学を終えて

甲府第一高等学校 1年 上野 亜珠

ホストファミリーとの対面式を終え、鼻歌でも歌いたくなるような開放的なストリートを爽快に走り抜けていく車の中、私は無言でシートに張り付いていました。二言三言あいさつを交わして以降、沈黙の続く車内で、何か言わなければ、何か言わなければと思えば思うほどにこれではだめだ、別の表現にしなければ...そもそも初めて会った大人に対して、どんな話をするのがこっちの常識なのだろう？緊張する私たちを気遣ってか、ホストファミリーの二人は必要以上に話しかけてはきません。考え始めると何も言えなくなり、それでも何か会話を、と十分にまとまらないままに発した最初の英文が「Do you grow any vegetables?」でした。言い終えてからanyじゃない、もしかして、someだった...?と、また不安になりましたが、「we have nice tomato.」と返事が返ってきて、ああ、私の英語は通じたのだとほっとするとともにとてもうれしく感じたことを覚えています。小さいけどね、と笑って付け足すホストファザーの優しい目に、ようやくいつもとちがう7日間の始まりを実感することが出来ました。

アメリカでの実地調査の中で強く印象に残ったことは、社会問題を考える際、比較して真似をするやり方では不十分であるということです。今回の研修で調査したテーマは、「どうしたら人口流出に歯止めをかけることができるか」。私たちは若者に焦点を当て、主要産業である農業の魅力をアピールし、人口の定着と新規移住者を増やすことなどを考えていました。日本では農業従事者の高齢化や、後継ぎの不足が叫ばれています。それはアイオワも同様だと思い、人手を増やすような策があれば農業の衰退も人口の減少も同時に解決できると考えていましたが、アイオワでは大型機械の導入が進んでおり、あまり多くの手が必要でないことを知りました。一見似ているように見えて、農業形態も流出の傾向も違うアイオワと山梨でそれぞれの社会問題を解決するためには、別々の方法でアプローチしていくことが必要であることに気がつきました。人口の減少の理由がなんなのか、減少によっておこる問題はなんなのか、同じ「人口流出」問題を取ってもその環境や文化によって答えは変わってきます。「アイオワでは大型機械が多く導入されているため農業に人手がいない。ならば山梨でももっと機械を導入すればいい」と言っても、傾斜地の多い山梨県では大規模に機械を利用するのが難しく、農業衰退の解決にも、人口流出の解決についても、決定打にはなりません。社会問題のより効果的な解決策を求めるとき、どのように問題を考えていけばよいか、学ぶことが出来ました。



「場所が変わると自分も変わる」

甲府第一高等学校 1年 五味龍聖

私はこの夏にアイオワ州と山梨県が協力したグローバル人材育成プログラムに参加し、多くのことを学びました。留学前と留学後では自分が全く違ったことを実感しています。

まず留学前にはアメリカの田舎と日本の田舎はどちらも田舎だから変化は特にないだろうと思っていました。しかし、実際に留学してみると違っていました。アメリカは多文化社会であるため日本でいう田舎とアメリカでいう田舎は異なっていたのです。日本の田舎、つまり山梨は人口流出により、シャッター街が増加しておりごくわずかなショッピングセンターが盛っているという現状です。しかし、アメリカの田舎、つまりアイオワ州は一見、小さなお店や公園に人がいっぱいいるように思えます。しかし、それは一部にしかすぎず、少し都市部から外れると、トウモロコシ畑や大豆畑であふれていました。つまりアイオワ州には表面には出ていない田舎の一面があったのです。また、日本でいう高速道路の無料の道がとても長く続いており、便利ではあるのですが、それにより人口流出が考えられました。このように実地調査に行かないとわからないことを知れてさらに探究心が高まり、自身の班の社会課題である人口減少による地域衰退を深く探究したくなりました。実地調査により探究する力も少しは高められたのではないかと思います。また、日本人からしたらリアクションが大げさなアメリカ人とともに過ごすことにより自分のリアクションも少し大げさになり、つまらないと思われていた日本人から脱出した気がします。それにより言葉が通じない相手とでもリアクションによりコミュニケーションを図れる自信があります。

次に学習会では班で話し合い共通の理解や探究すべきことを深く話し合い共有できたため有意義だったと思います。留学中のプログラムでは毎日いろいろな場所へ実地調査に行ったためその土地の文化や雰囲気自身を体で味わえ、とても勉強になりました。将来、世界でグローバル人材として活躍するであろう、私たちにとても大切な時間だったように思えます。ホームステイでは、実際の土地の住民の生の声を聴くには最も大切なものでした。私は山梨のことをホストファミリーに伝え、ホストファミリーからアイオワ州の実態を教わることにより、社会課題を解決する上での提案を考えることができ、とても有意義でした。また、グローバル人材にとって必須条件である英語力の向上も出来たと思います。私にとって初めてのホームステイで勉強になりました。



異国の地に足を踏み入れて

甲府第一高等学校 1年 中桐裕樹

1 この研修プログラムで私達は、人口流出問題について考え、調べ、レポートにまとめた。その中で私たちが考えた解決策は農業を始めたい人の初期投資の軽減として農具の貸し出しを提案していた。しかし実際は近年、農業従事者と他の人との格差が広まることで富める人々がますます富みを手にし、土地を手にするので、あらたに農業を始めても長く続かないという状況があることを現地で知り、私達の提案は解決策になっていなかったことを知った。また、この研修で実際の状況はこみいっているのだということを知ることができ、この研修では大きな成果があったと思う。この社会課題について今後も自分で考えていきたい。

研修中はコミュニケーション能力を高める上でとても良い経験になった。この一週間は英語で話す、聞くという毎日で特に語彙力がついたと感じ、それと同時に授業などで取り扱う単語の量がいかに少ないものかを身をもって知ることができた。ホームステイや見学先では、コミュニケーションをとるには欠かせない文化や生活習慣を知ることができた。今まで大きな距離を感じていた日本の生活とアメリカの生活は思いのほか変わらないことに驚き、日本が欧米化していることも感じた。また、ホームステイでは英語で話し生活を共にする初めての経験だった。ホストファミリーに感謝したのはもちろんだが、自分の家族に対するありがたさも感じるようになった。

2 事前研修会は思いのほか早く終わった。英語を少し話せるようになってからしたことがなかったせいか、ネイティブの先生と一対一で話すことが新鮮で英語での会話が面白かった。

研修中、私の新たな発見はアイオワの町の作りだった。アイオワ州は雪深い冬の厳しい土地のため、除雪車が多く、道の隅には雪を置いておく場所をよく見かけた。また信号機も縦長になっていて、雪の対策がなされた町の作りだった。リビングヒストリーファームでもどこの家も地下室があり食糧が蓄えられるようになっていたし、比較的寒さにも強い羊などを育て、学校にはストーブがあった。この一週間、毎日が新しい発見の連続でその多くはアイオワの農業につながるものだった。

これからも、自分の好きな農業を中心に世界を見ていけたらよいと思う。



アメリカ短期留学を終えて

甲府第一高等学校 1年 西田航大

私はアメリカに足を踏み入れてすぐに、日本の風景や空気感とアメリカのそれは全くもって違うと感じ、感動した。この短期留学が私にとって初めての海外渡航だったので、その感動は大きかった。広大な平野に住宅が立ち並び、アイオワ州のどこへ行っても芝生がきれいに整備されていて新鮮な空気で満ち溢れていた。こんなにも素晴らしい環境の中で、私は数多くの貴重な経験を得ることができた。

まず、社会課題に対しての課題解決能力については大きな収穫があった。私は人口流出という社会課題をテーマに小論文を書いた。その際に私が考えた解決策は世間一般的に大衆が考えるような平凡なものに過ぎなかった。しかし、グループでの討議やアイオワでの実地調査を繰り返していく中で次第に思考が変わっていき、最終提案では私たちのグループの提案は胸を張れるものに仕上げられた。わずかな時間でここまでできたのは一つでも多くのことを吸収してやろうという気持ちでこのプログラムに臨めたからであると思う。

次に、英語でのコミュニケーションについて、7日間という短期間ではあったが大きく成長することができたと感じた。日程初日にはホストファミリーの喋る英語が早すぎて全く聞き取れなかったし、自分から言葉を発することは少なくイエス・ノーの返答が大部分を占めていた。2日目には聞き取れなくてもとにかく英語をしっかりとした文で喋るように心掛けた。私の下手な英語を嘲笑されるか不安だったが、ファミリーは私の喋ることを優しい笑顔で聞き入れてくれた。ファミリーと日々コミュニケーションをしていく中で徐々に英語が聞きとれるようになり、会話が次第に長く続けられて英語でのコミュニケーションを楽しむことさえできるようになった。もちろんまだ、自分の主張を正確かつ流暢に英語で話すことはできず、かなりたどたどしい英語しか話すことはできないが着実に進歩したと言ってよいだろう。

その他に、アメリカの街や施設を見てアメリカの文化や実情を知れたことも大きな収穫であると思う。特に私が一番心に残ったのは、ロサンゼルスとアイオワの違いについてだ。アイオワの閑静な風俗に比べて、ロサンゼルスは大都会な反面、スリやその他軽犯罪が多発していてホームレスもたくさんいた。これは渡米前に私の想像していたアメリカの都会像とは違い驚いた。また同時に、観光客が安心できないというのは残念に思えた。

この留学プログラムを通して日本の誇れる点と他国に学ぶべき点をかいまみえた気がする。また、初の海外渡航は大変大きな刺激を受け、アメリカだけで

ない様々な国へもっと行ってみたいとより強く思うようになった。そして、また海外を訪れるときには、今回英語でのコミュニケーションにチャレンジしたのと同じように、言語の壁を恐れることなく乗り越えていきたいと考える。

DON ' T BE SHY !



米国学楽

甲府西高等学校 1年 秋山 銀河

僕はこのプログラムの存在を授業で先生に聞かされた。初めは「こんな自分がまだ外国で通用しないだろう」と諦めていた。しかし、その思いよりも世界に貢献するという将来の夢や英語を公用語として生活することへの憧れの方が強かったためこのプログラムに参加することを決心した。

(1) 留学前と留学後の自分自身の変化

山梨県とアイオワ州の共通の社会課題について、若者の人口流出などの人口問題について僕は焦点を当てた。留学前は、課題点を見つけるだけで満足していた。しかし、アイオワでこの課題を解消しようと様々な取り組みをしていることに感動し、自分たち若者が行動を起こさねばならないと強く感じた。地元産業に興味がなく都会で働くことを夢としている若者が多だろう。では若者は何を理由に地域産業に興味がないと決めつけているのだろうか。まずは、地域産業について体験し知ることが大切だと思う。

コミュニケーション能力の変化について、この留学を通して1番変化したポイントだと思う。主にホームステイで身に付いた力である。ホームステイでは、相手に伝えたいことを伝えるためには正確にコミュニケーションをする事が必要とされる。その中でも時間の経過とともに、ミスを恐れずに積極的に会話をする事ができた。しかし、更なる高みを目指すためには語彙力を高めることが大切だと痛感した。これからも様々なプログラムに参加し外国人と交流する経験を積みコミュニケーションスキルを高めていきたいと思う。

問題を解決する力もホームステイでついたと思う。ある程度の問題は、自分で解決しなければならない環境にいたからであろう。身に付けたこの力を日本で生かしたいと思う。

(2) 体験を通して感じたこと

アメリカへ出発する前に事前学習会が何度か行われた。そこでは現地で行う社会課題についてのプレゼンテーションの準備をしたり、ALTの先生たちによる英語だけで行われるロールプレイで現地での様々なシチュエーションを想定し一緒に行く仲間たちと楽しく交流をしながら学ぶことが出来た。この事前学習会がなかったら今回の成功はなかっただろう。

留学中はセントラルカレッジやアイオワ大豆協会、リビングヒストリーファームなどを訪れ、プレゼンテーションで発表しようとしていたものと違う、正確な情報を得ることができ、アイオワについても知ることができたのでとても有意義な時間だった。

ホームステイでは、初日とても緊張してしまいホストファミリーに心配されたことをよく覚えている。日がたつにつれて緊張が解けていき近所の人との交流も出来た。そして最終日、30キロのサイクリングをしたり、ゴルフをしたりしてホームステイ最後の日を楽しむことができた。自分を理解しようとしてくれたりするなど本当に沢山の協力をしてくれたことに感謝をしたい。最高のホームステイとなった。

この留学は、最高の仲間に出会うことができ、最高のかたちで終わることができ、次へとつながるものとなった。



さらなる成長へ

甲府西高等学校 1年 国府田 莉乃

アメリカで過ごした日々は、私にとってすべてが新しく、また、刺激的であった。

ホームステイ先では、最初は聞きなれない言語や生活スタイルで、その日を過ごすのが精一杯だった。それでも、私のつたない英語をホストファミリーは最後まで真剣に聞いてくれたし、映画館へ行ったりお散歩をしたり、アイスクリーム屋さんへ行ったりと、いろいろなところへ連れて行ってくれた。それが本当にうれしかったし、いつしかもっとコミュニケーションをとりたいと自分から積極的に話すようになっていった。

しかし、それと比例して自分の話したいことがうまく英語で言えずつまってしまったり、相手が言ったことがうまく聞き取れなかったりして歯がゆい思いを何度もした。

そんな私と常に笑顔で接してくれたホストファミリーには、感謝してもしきれない。

アイオワでの見学では、感動と驚きの連続だった。

セントラルカレッジやソイビーンズ工場など、アメリカのすごさを目の当たりにした毎日だった。

そこで、どこへ行っても感じたのがアメリカ人のフレンドリーさだ。

バスやレジで隣になれば必ず話すし、アメリカ人同士もすぐに仲良くなっていた。

それでも、みんな私たちにはゆっくり、簡単な英語で話しかけてくれ、アメリカ人の優しさを思い知った。

私たち日本人は少し堅いところがあるから、そのアメリカ人のラフで自由なところはとても憧れたし、私もいつか、アメリカ人の友達がほしいと強く思った。

そして、またまた感じたのが、やはり、英語力の低さ。

私は、自分の中で英語は得意なほうだと思っていた。

しかし、いざ実際に行ってみると、何も聞きとることができず絶望したのを覚えている。

このままじゃいけない。強く強くそう思った。

それでも、なんとか食ついで、少しでも聞き取ってやろうと死ぬ思いでメモをとった。

そんな楽しくも大変な日々の中、私の支えになったのは一緒にいった20人

の仲間たちだ。

みんなレベルが高く圧倒されつつも、一緒に笑いあい、異国の地で切磋琢磨した日々は私の中で最高の思い出である。

おそらく、この仲間たちがいなければ私はとっくに心が折れていただろう。

みんな、本当にありがとう。

この一週間は長かったようで短かったが、確かにいえることは、この経験は私を大いに成長させてくれたということだ。

この経験が無駄にせず、これからの生活の励み、そしてさらなる成長へとつなげていきたいと思う。

そしていつの日かまた、アイオワの地へと足を踏み入れたい。



留学プログラムを終えて

甲府西高等学校 1年 堀松 夕夏

今回のプログラムでは、ほとんどの班が、人口減少をテーマとしました。私の班は特に人口減少と農業の関連をテーマとして、事前学習中に解決のための提案を考えました。しかし、アイオワでセントラルカレッジやアイオワ大豆協会などを訪れる中で、より現実的で、良い提案を導き出すことができました。

私が今回のプログラムの中で最も自分の班の研究に役立ったと思ったのは、セントラルカレッジの教授の話です。セントラルカレッジの学生たちは、「water,food,community,energy」の4つの観点から農業について学んでいるということ。カレッジ内のガーデンで野菜などを育てながら、より良い栽培の仕方を研究しているということ。どれも英語での説明のため正確に聞き取れない部分があったのが痛いところですが、自分の英語力を駆使しながら、何とか聞き取ろうと努めました。ここでの経験をもとに私の班が導き出した農業の発展のための解決策は、「農業について研究する大学と農業者が提携して、観光なども意識した新しい農業の形を作る。」というようなものです。

現地でホストファミリーに向けてプレゼンテーションも行い、自分たちの意見を伝えることもできました。社会課題の解決とコミュニケーション能力の向上の同時進行は大変でしたが、今までにない経験になったことは確かです。

アイオワにいる間は、ほかにもたくさんのプログラムが組まれていて、様々なことを学びました。Living history farm ではアイオワの歴史を見ることができましたし、マコーリーテラスという高齢者施設では、一緒に食事をしながら、貴重な体験や人生のアドバイスまでいただきました。また、ホストファミリーはとてもよい人で、空いた時間に教会の日曜学校の教室や礼拝堂に連れて行ってくれたり、日曜のマーケット、貧しい人のためのボランティアにも参加させてくれたりしました。短い期間の中でよりたくさんの経験を積ませてくれたことに、本当に感謝しています。

はじめてだらけの今回の留学プログラム。事前学習会からほかのメンバーの英語力や行動力に圧倒されながらも、自分も成長できた活動でした。この経験を、今後の生活、人生に生かしていきたいと思います。



アメリカ留学を終えて

甲府西高等学校 1年 矢崎 碧

私が留学プログラムに応募した理由は、アメリカの文化や生活スタイルへの興味と、「英語を話せるようになりたい」という漠然としたものだった。しかし、「英語を話せるようになりたい」という思いは帰国後、確かなものへと変わっていた。

「英語力を向上させたい」と強く感じたのは実際に短期留学し、自分の英語力のなさに気付いたからだ。現地の人のお話を聞く時も、ホームステイをしている時も、相手の言うことが聞き取れないことが多くあった。また、自分の言いたいことが上手に表現できずにもどかしく思うこともあった。<サラダ>や<アラジン>などという簡単な言葉でさえ、発音が間違っているために何度言っても伝わらず、困惑したこともあった。自分の思いを相手に伝えるため、英語力を着実に向上させることが大切だと強く感じた。

このこととは相反するかもしれないが、英語力だけがコミュニケーションをとる上で重要ではないということも改めて感じることができた。私の周りの人々はとても優しく、特にホストファミリーには本当に助けられた。私が理解できていないことが分かれると何度もわかりやすく説明してくれ、逆に伝えようとしているときは辛抱強く待ってくれた。そのおかげで私は不安無く5日間を過ごすことができた。いつも私と一緒にいてくれた優しいマディ、かわいい笑顔とこだわりのレコードを持つ明るいティファニー、そしてどんな時も私たちに微笑みかけ安心させてくれた第二の母フィリス。最高のホストファミリーに出会えたことは私の誇りである。また、現地では知らない人から声をかけられることもあり、始めは日本との違いにとまどったが、慣れるとスムーズに返事ができるようになった。リビングヒストリーファームで話しかけてくれた女の子達とは、たった少しの時間だったがとても親しくなることができ、それもまた私の自信となった。アメリカ人の優しさとフレンドリーさが、私のコミュニケーション能力を向上させてくれたのだと思う。

ただ一つの心残りは、プログラムで訪れた場所での説明をほとんど理解できなかったところである。一番大変だったのは高齢者福祉施設に行った時で、共にご飯を食べたおじいさんが私に対して一生懸命お話をしてくれたにも関わらず、私は内容をきちんと理解せずに相づちを打つなど、とても失礼なことをしてしまった。今回、普通ではあまり行けない所に行ったり、話を聞いたりする機会が多くあった。しかし、そのような貴重な場面を十分に楽しめなかった点についてはやはり私の力不足が原因なので、これから現地で生活出来るくらい

の英語力をつけ、必ずもう一度アメリカに行きたいと思っている。

今回の留学プログラムで得た経験は本当に貴重で充実していて、私にとってかけがえのないものとなった。特に一緒にアメリカへ行った仲間と先生、アイオワの人々、ホストファミリー、そして両親にはとても感謝している。これからはこの経験が無駄にせず、たくさん勉強してさらに視野を広く持ち、夢に向かって進んでいきたい。



「留学プログラムを終えて」

甲府南高等学校 2年 一瀬彩栄

(1) 今回この留学プログラムに参加して、社会課題に対する関心が以前よりも高まったように感じます。今までニュースなどで、農業や人口についての様々な社会課題を耳にすることはありましたが、今回のプログラムを通して、自分がいかにそれらについて考えたことがなかったかについて気付かされました。ですが、今回農業人口の減少について調べ、他のメンバーと話し合っていく中で、様々な問題や解決策について考えるだけでなく、「今自分たちにできることは何か」というところまで考えることができました。また、今まで私たちにはあまり関係がないように聞き流していた部分がありましたが、社会課題について私たち自身で考えていくことも大切だと感じました。

コミュニケーション能力については、英語力というよりも積極性という面で向上することができたように感じます。私は、人見知りなところがあり、なかなか初めはできませんでしたが、英語力を高められたらと、同じホームステイの子と力を合わせながらコミュニケーションをとろうと挑戦しました。慣れなく、間違いだらけの英語でしたが、とてもホストファミリーと仲良くなることができ、積極性の大切さを感じました。

問題解決に向けてみんなで話し合いながら考える中で、自分にはない考えにたくさん触れ、自分の意見を言いつつしっかりと様々な意見を聞き、協力することが重要であると思いました。また、今までは問題に対してこうしたらよいという考えはありましたが、自分たちには何ができるか、というところまでつながっていきませんでした。今回、交換留学生の大学生や現地の学生と関わる中で、いろいろな話を聞き、自分たちにできることまで考えることができたように思います。これから、問題解決について考える機会はだんだんと増えていくと思いますが、そこまで考えていけたらと思います。

(2) 今回の留学の前の事前学習では、社会課題について考えるということで、少し難しく、行きづまりそうになったこともありましたが、メンバーで協力してなんとかポスターを完成させることができました。また、同じ課題について考える中でも、班の4人でかなり意見が異なっていて、そういう意見もあるのか、と新しく気付くことができました。

アイオワ州では様々な見学地へ行きましたが、説明が英語ということですので理解することができなかったのは、少し残念に思うところもありますが、インターネットだけではわからないことを現地で直接見たり、話を聞いたりすることができ、とても勉強になりました。

事前学習から準備していった発表に関しては、現地で様々な指摘をされ、全くと言っていいほど違うものに変えるということになりましたが、そのことによって、さらに考えや理解を深めることができました。

ホームステイでは、ホストファミリーが言っていることは理解できても、答えたいことがなかなか英語にできず困った部分も多かったですが、ホストファミリーは熱心に聞いてくれ、とても嬉しかったです。もっと英語を話せるようになって、もっとたくさんのことを伝えられるようになりたいです。

最初、このプログラムに参加するかとても悩んでいました。ですが、今回のプログラムを通して、一週間という短い間でしたが、社会課題についてだけでなく、本当にたくさんのことを学び、参加して本当によかったと思います。これから様々なことに興味を持ち、身の周りだけでなく広いところまでさらに視野を広げ、生活していければと思います。



「着眼点を持って行った海外旅行」

甲府南高等学校 2年 伊藤ユウキ

何度かの事前学習を積んで私たちはコミュニケーション能力を身に付け、アメリカへと向かいました。ミネアポリス市の空港に着いた時から言語が切り替わり、少しだけ全体に緊張感が出ていたように感じました。その時から私は「Don't be shy」の下に必要以上のことを話すことを心掛けていました。例えば「How old are you?」と言われたら「I'm seventeen years old. I'm a high school student. I often sing songs in my school. What is your hobby?」と相手から話を聞き出すようにすることです。このことは結構成功し、自分では、相手に「どんな話をしようか」とあまり気を遣わせなかったと思います。

そして、アイオワ州に着き、農業や歴史に関する話をたくさん聞きました。人によっては力説になっており、とてもスピーキングの早い人もいました。正直、最初の三日間はほとんど単語単位でしか聞き取れなく、4割り程度のことしか理解できてなかったと思います。話としてはゼロ知識であった私にとっても興味深くなるようなものが多かったです。一番面白かった話は、キャピトルで話された、アイオワの成り立ちでした。キャピトルから感じられる派手さもアメリカならではの様で良かったです。

1つ重く感じていたことは、プレゼンテーションのことでした。しかし、終わった今考えると、プレゼンテーションをしなくちゃいけないというのは、話を聞いて山梨と対比して考えることにつながり、おかげでより理解を深めることができたと思います。プレゼンテーション本番では、私は皆の目を見て話したいと考えて、原稿を作らないで臨みました。結果何とか伝えられたと思うので良かったです。後に先生たちに褒めて頂き嬉しかったです。

最終日の観光でしかない、あのハリウッドに行き、60ドルのディナーを食べ、夜景を見て、夜中このプログラムで仲良くなった人たちと話して夜を過ごしたことももちろん含め、とても意味のあった、楽しかった一週間でした。



留学プログラムを通して

甲府南高等学校 2年 鎌田 優

(1) 留学前と留学後の自分自身について

留学前、山梨とアイオワの社会課題を考えたときに、まず思いついたのが人口減少だけであった。その時私はあまりにも山梨やアイオワについて知らないことに気付きました。調べていき解決策を考えて行く中で、次第に身近な問題として捉えられるようになってきました。実際に現地に行って、それらを自分たちで解決しなければならないという意識が強くなったと今でも感じています。

アメリカに出発する前に講師のローレン先生はこう言っていました。恥ずかしがるなど。最初英語で物を伝えることに少し抵抗を感じてしまいコミュニケーションをうまくとれなかったが、恥を捨てて面と向かって話すことで物事をよりはっきり伝えられるようになりました。間違えても相手が教えてくれるので、楽しく会話することができ視界が広がった様な気分になりました。

もう一つ、このプログラムで学んだことがあります。それは問題を解決する方法です。一つの問題に取り組むうえで協調性というのは大切なことです。だが、今回のような社会課題といった大きな問題だと個性のほうが重要なのではないかと感じました。協調しすぎて責任が誰にあるのかなんて場面を何度か見たことがある私にとって、しっかりと話し合っ解決策を探るのが良いのではないかと思います。

(2) 体験を通して感じたこと

事前学習会は、社会課題に対し討論するという点で、とても役立ちました。具体的には参加者同士の交流です。私は最初知らない人ばかりで少し緊張していましたが、ケリー先生の行ってくれたロールプレイングを通じより親しくなりました。その後会話していく中でその人の考え方やアイオワに対する気持ちを知り、プレゼンの内容をまとめられました。また現地で何を調べるかなどの方向性を定めることもできました。事前にこういったことを行わなかったことを考えると少し恐ろしく思います。

また、留学中は初日から最終日までイベントが目白押しでした。特に大学や協会の見学では、農業に対して行っている活動を生で体験したりすることができとても感激しました。他にも、草原や農場などの自然を散策してその歴史を感じたり、高齢の方々や文化の違いについて話しながら折り紙で交流

したりしました。ロサンゼルスで最後に見たグリフィス天文台からの夜景は今でも覚えています。アメリカがどんな国か、それが分かる充実したプログラムであったと感じました。

今回のホームステイで私は比較的疲れたり体調を崩したりすることも無く健康に過ごせました。それは私が海外に興奮していただけでなく、アイオワという地域が私の体に無理をかけなかったからでしょう。ロサンゼルスと比べ自然が多く、ホストファミリーの家に居るときはとてもリラックスできました。海外初の地域がこのアイオワで良かったと思いました。そしてこのホストファミリーで良かったとも思いました。この数日間、まるで家族の一員のようなようでした。山梨には無い赤外線による銃のゲームやショッピングモールなどたくさんの場所に連れて行ってってくれました。特にモールは規模が大きすぎて売ってないものが無いのではないかと思います。とても驚きました。ホストファミリーはいつも私に優しくしてくれてどんな時でも気遣ってくれました。本当に感謝してもしきれません。

今回のプログラムはたくさんの人たちの協力があったのだと思います。この一週間、支えてくれたすべての人たちに感謝したいです。



アイオワ留学

甲府南高等学校 2年 小谷祐希

(1)

今回、留学という大きな体験の大部分を占める取り組みで、もちろんそのために多くのことを調べ、聞き、考えていく中で、人口減少という社会課題に対する意識は変わった。これまでは、ただ漠然と、人口を増やせば地域社会や産業が活性化するということがこの社会課題に対する主な考えだった。しかし、Iowa Soybean Association で、人が減っても技術の発達によりアイオワの農業は維持できるという考え方を聞き、人口を増やすだけでなく、減った人口の分をどのように補填するかということも大切なのだと分かった。(ただしこれは、今回のテーマとは少し外れるかもしれないが。)

最初のうちは、話したいことがあっても、それを自分の英語力で伝えられるのかという不安でなかなか話すことができなかった。そして、英語があまり得意ではないから、という言い訳に甘んじていた(事実、それで責められることはなかった)。だが、後半では、英語に慣れてきたことと、上手く話せなくても話そうとすることが大切であるということに気付いたことで、少しずつ自分から話せるようになっていった。

(2)

何か一つの課題について、考えをまとめ、ポスターにし、英訳し、プレゼンテーションにするという作業が、想像以上に大変な作業であった。が、同時に面白くもあったし、良い経験になった。また、外国人の先生方による、英会話やプレゼンテーションの方法についての授業も、楽しみながら取り組むことができた。

正直行く前は、あまり観光という感じではないと知り、少し落胆していた。だが、実際行ってみると、そこでは多くの現地の人との交流や、多くの学習をすることができた。これは、ただ観光をして楽しむだけではできない体験だった。

私が行ったとき、ホストファミリーはとても忙しく、弟の Tommy には会えず、Christine と Nate にもなかなか会えず、ほとんどの時間を Sam と過ごした。アメリカならではの多くの場所に連れて行ってもらい、楽しい時間を過ごせた。



成長の夏

甲府南高等学校 2年 鈴木佑菜

アイオワの自然と優しさのなかで、大きく成長できた一週間でした。

私はもともと英語を使った活動が好きで、普段から洋楽などにも親しんでいます。また将来のため、自己の世界を広げるためにも、絶対に学生のうちに日本を出て色々な経験を積みたいと考えていました。そして今回、このプログラムの話を聞いて、すぐに参加したいと思いました。

アメリカ滞在中の一週間は、自分の目に映る全てが新鮮でした。多くのことを体験し、そのどれもが心に残っていますが、ここでは敢えて二つのことを挙げます。

一つ目は、私が体調を崩してしまったプログラム三日目のことです。その日は朝起きてすぐに吐き気に襲われ、それをホストマザーに伝えると脱水症かもしれないと言われました。今まで脱水症の経験などは無く、また普段は滅多に具合が悪くなることもないので、不安が募りました。しかもここはアメリカ、自宅ではありません。言葉の壁もあります。しかしホストマザーは丁寧に私の話を聞き、またゆっくりと私が聞き取りやすいように話してくれました。そのおかげで意志疎通も難なくでき、とりあえずその日のプログラムは不参加となりました。更に、幸いなことにホストマザーは看護師だったので、私は安心して彼女に従うことができました。ホストマザーは、一時間おきに眠っている私を起こし水分をとるように計らってくれました。そしてその日のうちに体調は回復し、翌日のプログラムには復帰することができました。全てはホストマザーのおかげです。他人の私に対し、とても手厚く面倒を見てくれた彼女の温かさに、感動を覚えました。例え人種が異なっても、気持ちが有りさえすれば助け合うことは簡単なのだと、身をもって感じました。

二つ目は、アイオワの自然についてです。山梨県も十分に自然豊かだと思えますが、アイオワ州は規模が違いました。やはりアメリカは広大な土地があります。特にアイオワ州は大平原に位置するため、景観としては山梨県と大きく異なっていました。山梨にいと、東西南北どこを見ても山がそびえています。その中には日本一の富士山も。しかしアイオワでは、山は全く見当たりませんでした。見渡す限りに青い空が広がっています。雲は綿菓子のようにいくつも浮かんでいて、映画やイラストで見る風景、という印象でした。またのどかに延々と続く大地は、日本では決して目にすることは出来ない景色です。そんな悠然とした環境の中で自然と気持ちも開放的になり、日本にいる時よりも様々なことに積極的になれたように感じます。日本では外国人と会話をする機会が

あっても、緊張してしまうなどして消極的になっていました。しかしアイオワでは、間違いを恐れず、臆することなく話しかけることができました。それも大きな成果です。

事前調査から始まり、入念な準備を経てアメリカで過ごした時間は、本当に楽しかったです。一緒にプログラムを作った19人の仲間とは、始めは話したことがなかった人とも現地での活動を通して交流を深め、とても良い関係を築くことができました。ホストファミリーや現地の方々の優しさにも触れました。英語でコミュニケーションをとることの難しさも楽しさも学びました。非常に密度の濃い、一生の思い出に残る日々。けれど、やはり一週間は短く、あっという間に過ぎてしまった気がします。今回の体験を踏まえて、もう一度、今度はもっと長期間の留学をしたいと感じました。それを実現させるためにも、今後一層英語やその他の勉学に励もうと思います。そしていつかまた、アイオワの自然と優しさに出会いたいです。



異文化体験を終えて

甲府南高等学校 2年 長沼祥平

(1) 留学前と留学後のあなた自身のことについて

あなたの社会課題に対する関心に変化はあったか。その理由は？

以前は「地域社会と私」という見方はあまりできていなかったように思う。

しかし、「地域からの若者の人口流出」という共通の問題をアイオワの高校生達と考え話し合ったことで私達高校生を含む「若者と社会」のかわり方について興味が湧いてきた。

コミュニケーションの力に変化はあったか。その理由は？

あったと思う。

以前の自分は見知らぬ人と会話をしたり声をかけたりすることは性格的にも勇気がなく、なかなか難しいことだった。だが、アイオワの人々は驚くほど人に対してフレンドリーだった。朝食にレストランに行き、ホストファザーが席に座るとすぐにある店員と話し始めた。そのうちに店員の娘がノア(息子)と通っている高校が同じだということが判明。より、会話が花が咲いた。さっき会ったばかりの二人がもうハイタッチするほど仲良くなっていた。店員や航空係員、アルバイトをしている学生など、働いている側の人と、客、一般の人々との距離が日本に比べはるかに近く、親しみやすさを感じた。

この留学経験を活かし、今後は、挨拶はもちろん、もっと注意深く人や物事を観察する力、分析する力を養い地域の人との交流に役立てていきたいと思っている。

問題を解決する力に変化はあったか。理由は？

すぐには見当たらないが、分かったことがある。

自分が疑問に思ったことを質問すればするほど自分の世界が確実に広がっていく、ということだ。

小さなことでは、現地でホストファミリーの送迎時、初めて見る建物に「あれは何？」と質問するとノアは何でもわかりやすく教えてくれた。dollars ショップ、ガソリンスタンドとコンビニの併設、大学制度についてなどなど。質問するのが楽しかった。

(2) 体験を通して感じたことについて

事前学習会

英会話学習やプレゼンの準備を重ねることで、参加する仲間との絆が深まり、初めての海外研修が充実したものになった。

留学中のプログラム(特にアイオワ州)

マコーリーテラスでの「福祉施設実地調査・交流」プログラム体験。高齢者福祉施設を訪問し、文化交流の中で、一番驚いたことは入所者皆さんが元気で若々しく、生活が楽しそうで、年齢よりずっと綺麗だったことだ。

日本では、「高齢化社会 = 医療費問題、認知症、過疎化問題など」マイナスで暗いイメージばかりを感じていた。(今思うとマスコミなどのイメージの植え付けになんの疑問も持たずに悲観的なとらえ方をしていたように思う。)

今回の経験を通して、日本ももっともって年を重ねることに希望を持って長寿 = 幸せ、の図式を私たちが持てるような社会を目指したいと心から感じた。

ホームステイ

私のホストファミリーは四人の息子と父、母の六人家族で、私は真ん中の18歳の双子の一人、ノアと一番多くの時間を共に過ごした。その中で強く感じたことは同世代のアメリカの高校生たちが、私達よりもずっと大人だという事だ。見た目だけでなく、行動力、発言力、自分の意見をきちんと伝える習慣にも驚いた。

「リビングヒストリーファーム」で昔の学校に入り、その仕組みについて現地の高校生から説明を受けている時のこと。彼女がひとりで施設の説明をするというのもすごいことだと感じたが、それだけではなかった。共に説明を受けたアメリカ人の小学2年生位の少女が何度も熱心に質問をし、高校生の彼女もその質問の一つ一つに丁寧に答えていた。両者の間に年齢の差は全く感じられず、子供でも大人同様に扱われ、大人のように会話を繰り広げるアメリカの文化を生で見、学ぶべき所を感じた。



Iowa はそう遠くない

甲府南高等学校 望月 花

プレゼンテーションを通して

六月から始まった山梨県での事前調査。正直なところ私は不安を感じていた。出会ったばかりで学年も高校も異なる4人が1つのプレゼンを作るということに対してもそうだが、それ以上に訪れたこともない遠く離れた都市の社会課題に対して解決策を練るという作業が途方ないものを感じられたのだ。それでも4人協力して日本での準備を終え、アイオワでの研修を迎えた。私が最も興味を持ったのはIowa soybean associationで伺った話である。広大な畑が印象的なアイオワであっても山梨県と同様に農家における後継者問題を抱えていることを知り、とても驚いた。プレゼン終了後、現地で私たちをサポートしてくださった方が私に現在のアイオワが抱える社会課題について少し悲しげに教えてくださった。その課題は驚くほど私たちの県が抱えているものに類似していて、こんなにも遠く離れた場所で聞く話とは思えなかったのである。はじめはただ遠い場所を感じていたアイオワ、そして自分が生まれ育った山梨県が抱える問題についていつの間にか本気で考え込む自分がいることにふと気がついた。今回この研修を通して考えた解決策はまだ未熟で微力なものかもしれないが、将来私たちが社会に出てから解決すべき課題にぶち当たったとき、今回の経験を生かして多角的に物事を見つめ、様々な要素を結び付けて解決を目指していけるのではないだろうか。いや、必ず生かしていきたいと思う。

Iowan との関わりを通して

私にとって、アメリカでのホームステイは今回で2回目であった。しかし、4年前、12歳でのステイ経験は私にとってかけがえのない貴重なものであると同時に「悔しさ」を残してもいた。英語力が追いつかなかったことで自信が持てず、積極的になりきれなかったのだ。だから今回アイオワでは「前よりたくさん喋る」を目標にしていた。ホストのArleenをはじめとするホストファミリーはとても優しく明るい一家で、そのおかげか自然に話したいことが生まれて私の目標は自然と達成された。全く異なる国で育った私たちがお互いの国に興味を持ち、交流する。そこで言語の壁を超えた友情がはぐくまれることの素晴らしさや楽しさを改めて感じた5日間であった。マコーリーテラスで一緒に食事をしたおばあちゃんたちとは、はじめはうまく話せるか不安に感じていたが、優しくかつ楽しそうに話す彼女たちは、「外国人」にはとても思えずすごく楽しい時間をすごした。普段、学校という小さなコミュニティの中で終結しているコミュニケーションの輪が一気に広がった気がして、なんだかとても嬉し

く感じた。日本にいる間も様々な人との出会いを大切に、もっともっとコミュニケーションの輪を広げていきたいと強く思う。



アメリカでの7日間

甲府東高等学校 1年 内田蓮紀

- (1) アイオワ州は山梨県よりも農業が盛んだと思いました。アイオワ州で育てている大豆やとうもろこしがアメリカの中でも生産量がたくさんの値を占めていることがわかりました。山梨県ではぶどうやももなどの果物が有名ですが日本の大部分を占めているわけではありません。私はその違いが社会課題を解決する鍵になるのではないかと新たに考えました。

学校で教わる英語とはまったく違うということを感じました。文法などの基本的な知識も大切だとは思いますが、グローバルな人材を育成するためには今回の留学のような英語に囲まれて過ごすことが大切だと感じました。はじめはホストファミリーが何を言ってるのか、分からなく、自分の意見を伝えるのはとても大変でした。しかし、毎日毎日英語ばかり聞いていたことによって耳が慣れてきて少しずつ聞き取ることができるようになっていきました。その変化を自分が感じるほどだったのでとても成長したんだと思います。それと同時に、相手が発音した単語はわかっていても意味を知らなく、理解できない場面が多々あったのでもっとたくさんの単語を覚えたいと思いました。

アメリカでは当たり前ですが英語しか通じず、自分の意思を伝えるために身振り手振りで伝える場面が何度もありました。そういったことは、日本ではやらないことだし、自分の英語に不安があっても“とりあえず言う”という勇気を出すことができました。日本においては自分で問題を解決するといっても限度がありますが、アメリカでは普段できないようなことを思い切って挑戦することができました。

- (2) 3回に分けて行われた事前学習会では、今回の留学の目的を自分の中で明確にすることができました。また、班活動があったおかげで知り合いが一人もいなく不安だった私に話せる友達もでき、とても良かったです。1週間の留学で20人とここまで仲良くなれるとは思ってなかったので、もっと事前学習会で話したかったなぁといまさら後悔してるくらいです。

今回の留学は私にとって初めての海外でした。アメリカの町並みは日本とは大きく違って、どこかの遊園地に来てるような刺激的な毎日でした。一人二席使えるような貸し切りバスで目的地まで向かいとても快適でした。アイオワ州のこれまでの歴史を学べる場所や、Central college、Soybean Association など数々の有名であろう施設に行くことができました。なかでも印象的だったのは、“Living history farm”です。有名なところだとは聞いてましたがとてもすごいところでした。夏だということにかまどを炊いて長いワンピースを着た人や、馬の蹄鉄を作っている人、箒をほとんど手作りで作っている人、薪を割っている人、たくさんの演出でその時代に戻ったかのようでした。また、最終日の夕食はハリウッドの“Hard Rock cafe”で食べました。照明が暗く、常に音楽が流れている中で食べたステーキはとてもおいしかったです。

ホームステイ先の家族とは1回メールのやり取りをただけだったので少し不安もありました。アイオワ州の空港に着くとホストファミリーの人たちが出迎えてくれてました。日本語でポスターを書いている人もいて来て良かったと思いました。家に向かう車の中で軽く自己紹介をしました。私がホームステイした家はとても大きくて日本とはまったく違いました。キッチン以外は全てカーペットが敷いてありとてもふかふかでした。家の中でも靴を履いているのかと思ってましたが、靴は脱いでもはいてもどちらでも良いといわれ、驚きました。朝早くに車で送ってもらい、その日のプログラムを終えたら迎えに来てもらう、ほとんどがそのような毎日でした。家に帰ってきたら夕食を食べに連れて行ってもらいました。ピザ、タコス、ハンバーガーなど毎日ボリュームがある食事で食べきるために苦労しました。夕食後のお父さんが畑で作ったスイカやとうもろこしなどの果物はとってもおいしくて毎日楽しみにしていました。広い庭で焚き火もしました。焼いたマシュマロに板チョコをはさんだスイーツはとーっても甘かったです。

毎日送り迎えをしてもらって朝夕の食事も食べさせてもらってとてもよくしてもらいました。5日目の自由行動ではショッピングモールにつれていってもらいました。お母さんとは猫の話で盛り上がり、お父さんとは畑でブルーベリーの収穫や石の話を聞く、1週間だけでしたが自分の家族のように思えました。とても親切でおもしろくてあたたかい家族でした。

今回の留学でホームステイがどれほどいいものかというのを実感しま

した。ホテルに泊まって旅行するのは違う発見があったと思います。私はホストファミリーになって日本のことをもっと知ってほしいと思いました。一生の思い出になる良い体験ができました。この体験を生かしていきたいです。



留学を通して

甲府東高等学校 2年 廣瀬琳香

(1)

山梨県とアイオワ州で共通している農業に関する体験や話を聞いてきました。しかし、同じ農園といってもどこまでも続く広大な土地などスケールが違い衝撃を受けました。私たちは人口減少に着目して事前学習を進めてきましたが、それには農業、移民、育児など多くの問題が絡んでいることがわかりました。1つの問題を解決するには、その周りを広く浅く知り、関連していることにも目を向ける必要があることを学びました。

コミュニケーションの力については、大きく変化しました。最初は一言話すだけでも文法を考えたり、ためらったりしていましたが、ホストファミリーと親しくなるにつれ思ったことを口に出したり、とりあえず話して行こう!という気持ちに変化しました。すると自然に自信がついてくるようになりポットラックディナーの時には堂々と英語を話せるようになっていました。話したいという気持ちがあれば会話はできることがとてもよくわかりました。

(2)

事前学習会では具体的なシチュエーションで英会話をとる練習をしていたのでホームステイをするにあたって心強かったです。それだけではなく、プレゼンテーションの構成なども学べたのでこれからの学校生活にも役立つと思います。

留学中のプログラムで自分にとって一番大きかったのが、福祉施設でお年寄りと一緒に食事をしたことです。テーブルには3人のお年寄りと一緒に私1人で座りました。90歳以上の方と話すのは日本語でも難しいなと思ってしまおうのですが、それに付け加え英語だったので会話は全く成り立ちませんでした。しかし、写真なら伝わるだろうと思いつき、とっさに携帯電話で撮った写真を見せました。するとどうにか会話がかみ合うようになり、最後には盛り上がり楽しい食事をすることができました。写真の力を借りましたが、その経験が今の私にとって大きな自信になっています。

ホームステイは、毎日充実した楽しい生活でした。ホストファミリーは私のたどたどしい英語を一生懸命聞いてくれ、とても嬉しかったです。英語を話すことが好きになりました。さらに、毎朝英語のクイズプリントを渡してくれたので、多くの英単語を自然に覚えることができました。とても優しく楽しい家庭にホームステイできたことに感謝でいっぱいです。

プログラムの企業見学などでは内容がほとんど理解できず苦しい思いをしましたが、それらがもっと英語を頑張りたい!!という気持ちにつながっています。とても有意義な8日間でした。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



「私の自信となった8日間」

吉田高等学校 1年 井貝美海

約3カ月にわたって、取り組んできたこの留学プログラムもこの報告書で最後となります。私は、この留学プログラムに「自分の自信となるものにしたい」という理由で応募しました。いま、約1週間の留学を終え、その目標は達成することができたと感じています。

事前学習会では、あまりにも大きい課題に少し不安を感じていました。しかし、先生方にアドバイスを頂いたり、グループの中で積極的に意見を出し合ったりするなかで、具体的な自分たちの発表ができると自信が出てきました。自分たちの意見を使って、課題解決に取り組み、どんな問題でも自力であきらめずに解決する力がついたと思います。また、一緒に行く仲間のこともあらかじめ知ることができてよかったと思います。

出発当日、これから1週間どんなことが起きるのだろうかとうずうずした気持ちでした。飛行機も物心がついてからは初めてだったので、興奮が収まることはありませんでした。約15時間のフライトを終え、現地でホストファミリーと対面したとき、いよいよかと少し緊張した気持ちになり、また悔いを残さないようにしようと気が引き締まりました。

アイオワは、美しい自然に囲まれ、どこへ行っても街の方々がとても優しくあったのが印象に残っています。日中は、みんなとアイオワについて学ぶために様々な歴史的な資料館を訪れました。どの場所でもたくさんの知識を得ることができました。アイオワの方々は、自分たちの街の歴史や産業などについて質問すると、とても詳しく答えてくださいました。私は、答えられないことも多くあり、山梨のことや社会問題に対してもっと関心を持ち、しっかりと知識をつけていきたいと思いました。夕方からは、ホストファミリーの方がとても親切で、色々なお店へ連れて行ってくださり、たくさんショッピングをしました。一緒に食事をするなかで、アメリカの文化をまじかで感じ、教えていただいたりしました。普段の学校生活の中ではもちろん、日本でも経験できないことをたくさん経験することができました。発表もうまくいき、アイオワで過ごした1週間はとても充実したものになりました。

留学に行く前に、一番心配していたことはコミュニケーションが取れるかどうかです。一週間、英語だけという環境にいて、英語を話すという能力もついたと思います。しかし一番の変化は、身振り手振りや、自分の限界のある知識を使って、相手にしっかりと伝える力がついたことだと思います。

この留学プログラムは私自身にたくさんのものを残してくれました。親元を

離れて、外国でひとりで生活するのは不安でしたが、帰るときには少しだけ大人になれた気がして、自分の自信につながりました。本当に充実していて、私の人生の大切な一部となる1週間でした。このプログラムを支えてくださった先生方、アイオワ州、ホストファミリーの方々、一緒に参加した仲間、一番支えてくれた両親に感謝したいです。



「アメリカで過ごした夏」

吉田高等学校 1年 小林美緒

この留学プログラムを通してたくさんのことを学び、自分の成長につながる
ことができたと感じています。

社会課題について調べるまでは、英語力の向上、アメリカでの学習が大きな
目的でした。

しかし、山梨とアイオワについて現状を知るほど、社会課題について強く興
味を持つようになり、自分が何かできるようになりたいという気持ちが芽生え
ました。

実際にアイオワに行って、農業に対する若者の関心がアイオワの方が高いよ
うに感じ、そこが解決への鍵になるのではないかと思いました。

このように、違いに気付くなど、物事を多角的に見ることで自分なりに意見
を持って、解決に向かう姿勢がこの留学での経験で身に付いたと感じています。

それは、事前学習で、班のみんなと意見を交換したり、アイオワで自分の目
で見たり、自分の耳で聞いたりして学ぶことができたからだと思います。プレ
ゼンの準備を進めていく中で、意見を言うことの大切さ、人の考えから学ぶこ
との大切さに気付くことができ、自然に班のみんなと仲も深まっていったよう
に思います。現地でも、相手の英語が分からないときには助け合ったり、協力
したりすることができたことが本当によかったと思います。

みんなには感謝したいです。

ホームステイは今回で二回目の経験でした。そのため、自分の成長や課題に
気付くことができる良い機会となりました。空港で出迎えてもらった時、2人
でホストファミリーに向かう人の姿を見ると、一人での滞在に大きな不安を感じ
ました。でもそんなことを忘れてしまうくらい、ホストファミリーは明るく、
優しく私を迎え入れてくれました。

以前は yes や ok など簡単な言葉で答えることばかりでしたが、昼間にみんな
で学習したことや自分の気に入った場所などアイオワについてホストファミリ
ーと会話を楽しめるようになったことが大きな成長だと感じています。

シャワーは夜に浴びたいとか朝ご飯はこうしたい、など自分から言うことは
勇気がいりました。そんなとき、家族なんだからいつ何をしてもいいんだよ、
とっていただいたことが本当にうれしくて、自分からコミュニケーションを
とる自信につながりました。

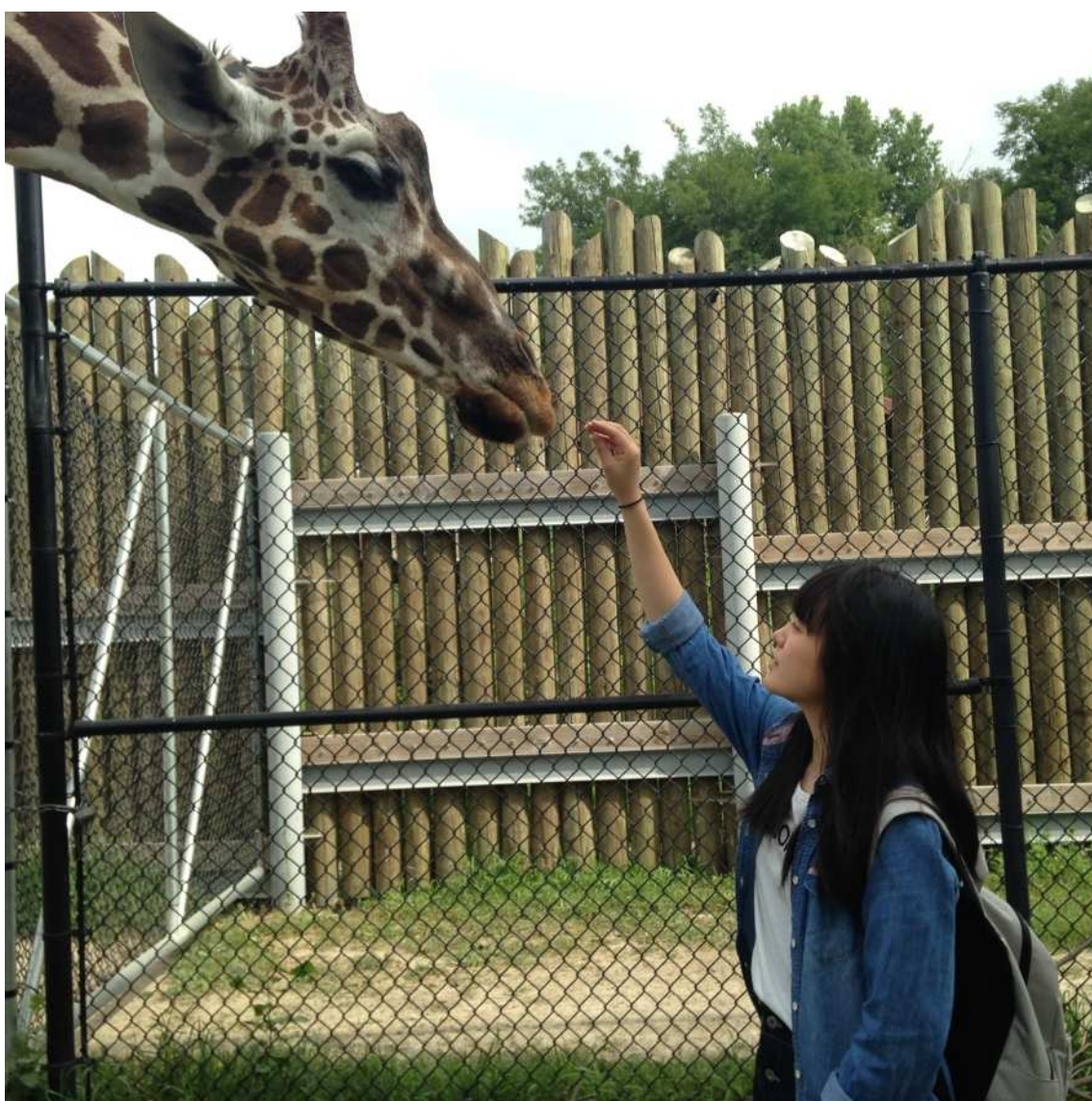
ホストファミリーは、これまで多くのボランティア活動に参加されていまし
た。

ホームレスの方を支援する施設に残った食べ物を届けに行って、そこで見たものは私のボランティアに対する考え方を大きく変えるものでした。

もちろんいろいろなレストランやお店にも連れて行ってもらいました。中でもホストファーザーの働いている動物園がとて心に残っています。

今回の留学で、山梨とアイオワのつながりの強さを感じることができ、何よりも人の温かさに触れることができました。

多くの方のサポートがあってアメリカに行けたということを忘れずに、どんな人に対しても優しい心をもてるグローバルな人になりたいです。



アメリカ短期留学を終えて

吉田高等学校 1年 坂本文香

今回のグローバル人材育成留学プログラムは私にとって大変貴重な経験であり、刺激的な1週間であった。「グローバルな人材とは何だろう」と考えながら日々を過ごした中で、アイオワ州の歴史や農業、文化、山梨とのつながりや人々の温かさなどを全身で感じ取った。日本に帰ってきたとき、私は自分なりのグローバル人材に少しながら近づけたのではないかと思う。

まず、私が最も成長したというところはコミュニケーション能力である。アメリカでは日本とは異なり、自分の気持ちをためらわずにしっかりと伝えなくてはならない必要性を感じた。事前学習会からロールプレイなどを通して、どのように相手にわかりやすく伝えるかを考えていた。現地でコミュニケーションの力が最も必要だったのはホームステイだった。受け身ばかりではいけないと思い、「自分から」を意識して積極的に語りかけることで、意思の疎通ができ自然と会話を楽しめることができた。

さらに、シニアの方々や他の大勢の人の話を聞き、交流も行った。その中で新しい発見もあったが自分の英語力のレベルも痛感させられた。成長と共に自分自身の課題も見つけることができた。

次に、社会問題に対する関心が深まった。事前学習において自分で資料を読んだりするだけではわからないことを、実際に現地に行って自分の目で現状を確認し、現地の方の説明を聞くことで自分の知識が深まった。単にアイオワ州の現状を知るだけでなく、山梨県との共通点、相違点を見だし、自分の考える幅が広がった。国はそれぞれ異なるがその国の気候や地形、技術に応じてそれぞれ特性があるのだと気付くことができた。

また、事前学習において各班に分かれて社会問題に対する解決策を考えると、自分ではなかなか思いつかないことも他の人のアイデアやお互いに話しながらよりよい案がひらめいたりするなど、知恵を出し合う楽しさを実感できた。同年代の人でも今までの体験や学習してきたことが人それぞれ違うので、そこを生かしてお互い助け合うことができた。

最後に、今回の留学プログラムで私が体験したことを通してグローバル人材に欠かせない要件を私なりに考えてまとめとする。

- 1, 主体的コミュニケーション能力
- 2, 自国、相手国(他国)をよく知り、よく理解しようとする意識
- 3, 課題を見つけたり問題意識を持ったり、様々な人と意見を共有しながらよりよい問題解決策を模索する力

以上の3点である。

